

今回登場するのは、この春20歳を迎える町内出身・在住の2名。
今の自分について、ふるさと東彼杵町について、お話を伺いました。



地元千綿駅の前で母親に抱かれる1歳のはるかさん。19年後の今年、同じ場所で撮影しました。

牛島はるかさん（駄地）

剣道を通して得たもの

この20年間で一番情熱を注いできたのは剣道です。小学校1年生の時に始めて、高校は剣道の強豪である長崎日大に進みました。日々稽古に励み多くの試合に挑戦して、礼節や忍耐を身につけることができました。仲間たちと一緒に感動も挫折も味わって大きな達成感を得たことが、自信につながっていると感じます。剣道を通してかけがえのない経験をさせてもらったと、感謝の気持ちでいっぱいです。

小さい頃から地元の剣道の先生をはじめ、たくさんの地域の方々にお世話になり、今も親戚のようにかわいがってもらっています。大人といわれる年齢になった今、そんな地域の皆さんに何か少しずつでも、恩返しをしたいなと思っています。

安心できるふるさと

高校卒業後は長崎市内の公務員専門学校に通って就職しましたが、現在は辞めて地元に戻ってきました。町内の居酒屋や食事処などでアルバイトをしながら、自分が本当にやりたいことは何なのかを探している最中で

す。アルバイトではドリンクを準備したり料理を運んだりしながら、幅広い世代のお客さんと話せるのがすごく楽しいです。いろんな人生を歩む大人たちの話しは興味深く、多くのことを学ばせてもらっています。

お世話になった地域の方と再会できる場にもなっていて、悩んでいる私に「あんたなら何でもできる、大丈夫」「何かあればいつでも帰って来ればよか」と温かい言葉を掛けてもらい、心から安心できる場所があることに幸せを感じています。周囲に感謝しながら、今を楽しむ気持ちを大切に進んでいきたいと思っています。



「二十歳を祝う会」当日は司会を担当。母親がかつて着た振袖を譲り受けたとのこと。



子ども食堂でのボランティア。子どもたちと関わる時の温かい眼差しが印象的でした。



中学生の頃、町の国際交流事業でオランダへ。「日本との違いを肌で感じた貴重な経験」と山下さんは話します。

山下竜斗さん (法音寺)

ボランティアがきっかけ

中学3年の頃から子育て支援や子ども食堂、保育園等でのボランティアを始め、高校時代は同級生と一緒に、子どもたちの居場所づくり『らびっと教室』をさせてもらいました。自分自身、学校に行きづらい時期がありその経験を活かして不登校支援の活動ができたこと、子どもから大人まで幅広い世代の方と関わったことが転機になったと思います。学校に行かなくても学びがあること、自分でも誰かのためにできることがあるとわかったんです。

地域への恩返しの気持ちから、介護分野に進もうと長崎短期大学に通っていたのですが、児童福祉について専門的に学びたい気持ちが高まり、今年4月から長崎国際大学に編入することに決めました。

現在は学童保育でアルバイトをしていて、子どもたちの悩みを聞くことができますが、話を聞いて寄り添うことしかできずもどかしさを感じます。これから専門的に学んで資格を取得し、様々な経験を積むことで、子どもたちの困りごとを解決に導くお手伝いができるようになりたいです。

人との関わりの中で

尊敬する大人はたくさんいますが、特に子ども1人1人を思って温かく臨機応変に関わられている、学童保育の先生方に憧れます。ボランティアとして地域で長く活躍されている93歳の方からは「教科書での学びもいいけれど、人と関わりながら自分の目で見て感じていくのも大切な学び」という大事な言葉をいただきました。それから、子どもたちからもらう言葉や手紙は何よりの宝物です。いろんな世代の人との関わりの中で学びを深めながら、僕もいつか憧れられるような大人になれたらと思います。



「二十歳を祝う会」では町内を代表して、誓いの言葉を述べられました。